

1 「学校^{たの}楽シート」の作成

(1) 「学校楽シート」作成のねらい

質問紙調査法は実施が容易で、比較的短時間で多くの児童生徒の実態を把握することができる。また、結果の集計やその見方も比較的容易で、分析も客観的に行うことができる。そのため多くの学校で用いられている調査方法である。

第2章で述べたとおり、本県公立学校の約96%（895校）が、各学校で独自に作成した児童生徒の実態調査を行っている。その多くの学校が、「適切な設問の在り方」、「分析の在り方」を課題としてあげている。また、各学校において生徒指導を推進するにあたり共通理解・共通実践を図るため校内研修や事例研究会などの取組が行われているものの、より効果的に生徒指導体制を機能させる上で、共通理解・共通実践を課題としている学校が多く見られた。

そこで、本県の実態を踏まえ、信頼性や妥当性があり、その結果が即、指導・援助につながる質問紙（「学校楽シート」）を作成することとした。

「学校楽シート」の実施・分析を行うことで、児童生徒にとっては、ありのままの自己と向き合うといった、自己洞察が促進される。また、教師集団にとっては、自校の生徒指導の目標、方法などについての共通理解が深まり、さらに「学校楽シート」の結果に基づく指導・援助を、それぞれの立場で協力して取り組むことで共通実践が図られるものとする。

なお、質問紙の作成に際しては、信頼性や妥当性のある心理尺度を作成するために鹿児島大学教育学部心理学科の協力を得た。

(2) 「学校楽シート」の内容構成

児童生徒が安心して学校生活を過ごし、自己実現を図っていくためには、集団の中で居心地のよい人間関係や自己存在感を体感することが必要である。そのためには、集団の中で、児童生徒同士の関係が良好であるか、教師と児童生徒の関係はどうか、児童生徒一人一人の自己肯定感や心身の状態はどうであるかなどを把握し、その状態に応じた適切な指導・援助をしていくことが大切である。

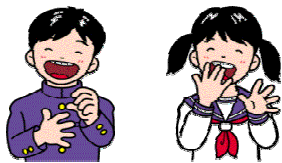
そこで、質問紙は、様々な先行研究や文献を参考に自己指導能力の育成に必要な次の6つの観点を設定し、児童生徒の適応感を把握できるようにした。

- | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ 友達との関係 | ☐ 教師との関係 | ☐ 学習意欲 |
| ☐ 自己肯定感 | ☐ 心身の状態 | ☐ 学級集団における適応感 |
| ※ いじめに関する内容 | | |

上述の観点ごとに各6項目、計36項目の質問で構成した質問紙をもとに、県内の中学生872人を対象に予備調査を実施した。予備調査の実施後、観点別に統計処理（信頼性分析）を行い、各観点ごとに各4項目に精選した。さらに、多くの学校がいじめの実態調査を実施していることを踏まえ、いじめに関する質問を2項目追加し、計26項目の質問となった。

なお、「学校楽シート」の回答は、最もふさわしいと思う数字の中から一つを選択する4件法とし、原則として4が望ましい状態であるとした。また、児童生徒の回答が恣意的であるかどうかを確認するために、数値が低いほど望ましい結果であると思なす逆転項目を一部設定したり、質問の回答結果が直後の質問に影響を及ぼさないように、各観点から1項目ずつ配列したりするなどの工夫を行った。「学校楽シート(中学生用)」については、図9を参照されたい。

学校の 学校楽シート ～中学生用～



このアンケートは、あなたが今の自分の状態を知ったり、充実した学校生活を送ったりするためにどのようなことに取り組んだらよいのかを考えるための資料として活用します。質問が28項目ありますので、よく読んで、自分の気持ちや考えに当てはまるものをつだけ選び、その数字に○を付け、四等欄にもその数字を記入してください。それでは、下の欄に必要な事項を記入してください。記入が終わったら、1ページから2ページまでの質問に友達に相談せず、自分一人で回答してください。終わったら、○の付け忘れや数字の記入が漏れがないか確認しましょう。アンケートは、誰にも分からないように集計しますので、安心して回答してください。

- 1 学年・組・番号 () 年 () 組 () 番
- 2 性別 男子 女子 ※ ○を付ける
- 3 氏名 ()

- 1 学校には、気懸に懸せる友達がいる。
たくさんいる いる あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 2 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。
たくさんいる いる あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 3 学級の中にいると、明るく楽しい気持ちになる。
とてもそう思う そう思う あまりそう思わない 全くそう思わない
4 3 2 1
- 4 委員会活動や係(当番)活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。
とてもそう思う そう思う あまりそう思わない 全くそう思わない
4 3 2 1
- 5 授業中に「できた」「わかった」と感じることもある。
よくある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 6 寝込むことがある。
よくある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 7 友達から物を隠されたり、暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。
よくある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 8 学級には、気懸に会話ができたり、遊びに誘ってくれたりする友達がいる。
たくさんいる いる あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 9 学校には、自分のことを理解してくれる先生がいる。
たくさんいる いる あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 10 学級の人々と一緒に学校行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。
とても楽しい 楽しい あまり楽しくない 全く楽しくない
4 3 2 1
- 11 学校行事の計画や準備をやり進めたとき、「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。
よくある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 12 授業中は、先生の話をよく聞いている。
とてもよく聞いている 聞いている あまり聞いていない 全く聞いていない
4 3 2 1
- 13 おなかが痛くなったり、下痢をしたりする。
よくある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 14 学校には、自分の悩みや本音の気持ちを解せる友達がいる。
たくさんいる いる あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1

※ 1～14の項目で○を付けた数字を下の回答欄に記入してください。

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
回答														

- 15 学校には、自分が聞きたいや失敗をしても、きちんと話を聞いてくれる先生がいる。
たくさんいる いる あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 16 この学級の一員でよかったと思うことがある。
よくある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 17 自分には、自分なりのよいところがあると思う。
とてもそう思う そう思う あまりそう思わない 全くそう思わない
4 3 2 1
- 18 授業中、自分から進んで学習に取り組んでいる。
よく取り組んでいる 取り組んでいる あまり取り組んでいない 全く取り組んでいない
4 3 2 1
- 19 頭が痛くなることがある。
よくある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 20 自分が困っているときに助けてくれたり、協力してくれたりする友達がいる。
たくさんいる いる あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 21 学級の先生たちは、自分に対してみんなと同じように公平に接していると思う。
とてもそう思う そう思う あまりそう思わない 全くそう思わない
4 3 2 1
- 22 学級は、目標やルールが大切にされているので、安心して思ひ込よく過ごせる。
とてもそう思う そう思う あまりそう思わない 全くそう思わない
4 3 2 1
- 23 他人から好かれている方だと思ふ。
とてもそう思う そう思う あまりそう思わない 全くそう思わない
4 3 2 1
- 24 学習した内容をきちんと理解するための、自分なりの学習の仕方がある。
たくさんある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 25 気分が落ちることがある。
よくある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1
- 26 友達から悪口を言われたり、無視をされたりしてつらい思いをすることがある。
よくある ある あまりいいない 全くいいない
4 3 2 1

※ 15～26の質問項目で○を付けた数字を下の回答欄に記入してください。

項目	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
回答												



終わった。記入もれがないか
確認しましょう。

図9 学校楽シート

(3) 「学校楽シート」の実施上の手順

「学校楽シート」の実施上の手順は、次のとおりである。

- | |
|--------------------------|
| ア 対象学年や実施時期の決定及び実施方法等の確認 |
| イ 集計表へのデータ入力 |
| ウ 結果の出力 |

なお、各段階における具体的な内容は、以下のとおりである。

ア 対象学年や実施時期の決定及び実施方法等の確認

(ア) 実施対象

現在、「学校楽シート」は、中学生用が作成されている。実施対象については、学級や学年、全校で実施したり、気になる児童生徒に個別に実施したりするなど、その目的に応じて実施することが考えられる。

なお、「学校楽シート」の小学生用と高校生用については、次年度からの調査研究において作成する予定である。

(イ) 実施時期

信頼性のあるものにするためには、学期開始直後の時期や学校行事の前後の時期を避け、児童生徒が比較的落ち着いている状況で実施するなど、配慮が必要である。また、学期末や学年末など、実施した結果に基づいて対応する十分な時間的余裕がない場合も控えたい。

なお、実施する場合は、次の考え方に基づいて実施する。

- | |
|--|
| <p>① 学級経営の指針や児童生徒への対応を考える場合</p> <p>学級経営の指針として活用したり、児童生徒への効果的な対応を考えたりする場合には、学期ごとに実施する。</p> <p>② 教育相談の資料として活用する場合</p> <p>定期相談や呼び出し相談などを進めていく際の資料の一部として活用する。</p> <p>③ 不適応行動が目立ったり、気になる児童生徒がいたりする場合</p> <p>学級の雰囲気や授業に影響が出たり、学級不適応の傾向や排斥されているような児童生徒が見られたりした場合の対策を講ずる指針を策定するためや、対策や対応を実施した後、それが適切であったかどうかを確認するためなど、随時実施する。</p> <p>④ 児童生徒や学級の1年間の変容を確認する場合</p> <p>4月下旬に実施し、その後の児童生徒や学級の変化の様子、教師の実践の結果を確認するために、翌年3月上旬に実施する。</p> <p>⑤ その他</p> <p>校内研修などの研究実践の結果を検証するために、実践の前後で実施し、児童生徒の変容を考察するのに活用する。また、校内研修や保護者会などで生徒指導について説明したり、共通理解を図ったりするための資料として活用する。</p> |
|--|

(ウ) 留意事項

「学校楽シート」の結果を活用し、対応していくための留意点を示す。

- | |
|---|
| <p>○ 日ごろから信頼関係を構築しておく。</p> <p>教師と児童生徒の信頼関係が構築されてこそ、信頼性のある回答結果が得られる。したがって、日ごろから児童生徒一人一人の存在を受容し、共感的なかわりをもつことが大切となる。</p> |
|---|

○ 児童生徒の個人情報の保護に努める。

「学校楽シート」は、児童生徒の内面を理解し、対応することが主な目的である。したがって、学級全員の前で結果の内容を公表したり、特定の児童生徒と比較したりすることがあってはならない。また、児童生徒が教師の守秘義務への信頼性に疑問をもち始めると、優等生的な回答があったり、回答を拒否する状況が出てきたりすることもある。教師は、児童生徒との信頼関係を重視し、児童生徒の個人情報の保護に努めなければならない。

○ 実施後は、継続的な対応をする。

調査のやりっ放しでは、回答したメリットを見い出せなくなる。実施し集計した後で、教育相談を実施したり、言葉掛けをしたりするなどして継続的な対応をすることが大切である。教師の誠実な対応が児童生徒との信頼関係をはぐくんでいくことになる。

○ 結果を裏付ける日常観察をしっかり行う。

教師の実施する観察法・面接法・調査法は、三位一体となつてこそ確かな児童生徒理解と適切な対応を生み出す。得られた結果を絶対視するのではなく、児童生徒を多面的に理解する上での資料として活用することが望まれる。特に、結果と日常観察との間にずれがある場合は、機会をとらえて教育相談を行うなどして児童生徒の内面を更に理解していく必要がある。

イ 集計表へのデータ入力

「学校楽シート」の実施後、児童生徒の回答点数（以下点数）を下の入力シートへ入力することで、以後のデータ処理が比較的容易なものとなる（図10）。

集計表は、一番上の欄に「学校楽シート」の質問が掲載されており、学校では、左の欄に児童生徒の氏名と性別を入力し、氏名横の入力欄に児童生徒の点数（4～1）を入力する。逆転項目については、点数が自動的に変換されるため（4→1，3→2など）、すべての項目について、高い点数ほど好ましい状態であると見なすことができる。

学籍番号	氏名	性別	1～7	8～14	15～21	22～28	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
							11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
							学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？	学校生活の楽しさや苦しさを感じていますか？

図10 入力シート

ウ 結果の出力

(ア) 個票

児童生徒の結果は、入力シートでも確認することができるが、右の「学校楽シート」個票で、より詳しく見ることができる（図11）。

個票は、最上部に学年や組、出席番号、氏名、実施日が表示され、その下の欄は、6観点の合計点数と学級平均が表とレーダーチャートで表示される。視覚的に各観点を比較することで個人の特徴を把握することができる。

また、下部には、6観点の各4項目といじめの2項目、合計26の質問項目とその点数が表示される。右下には、教育相談等で使用できるようにメモ欄を設けた。

この個票は、入力シートのデータが自動的に表示される。

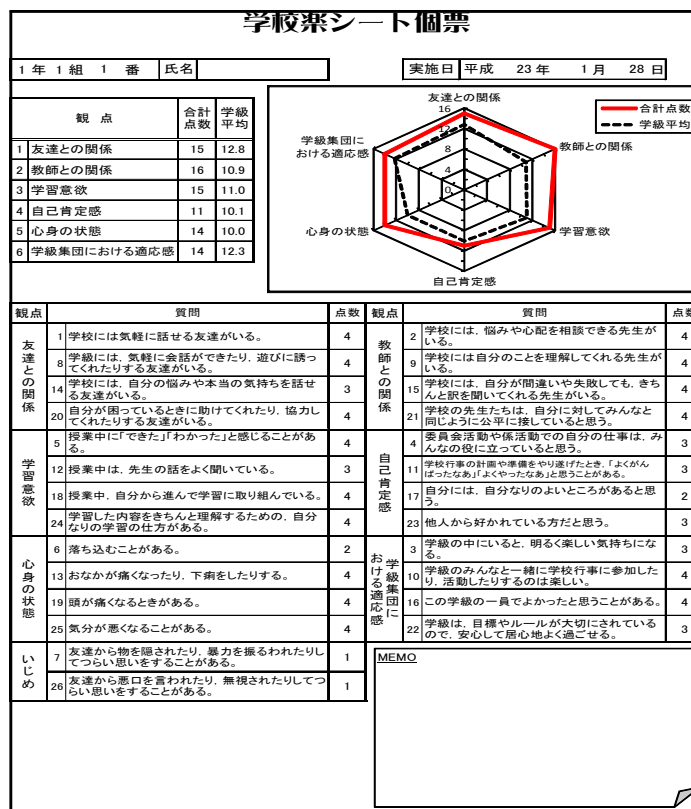


図11 個票

(イ) 学級シート

学級の結果は、右の学級シートで詳しく見ることができる（図12）。

学級シートは、上部に観点別の学級平均と男女別平均が表示され、その下に、学級と学年の平均が観点別に表とレーダーチャートで表示される。この学級シートも視覚的に各観点を比較することで学級の特徴を把握することができる。

また、学級担任が学校楽シートに回答することで、学級の平均と学級担任の評価が観点別に比較できるように表とレーダーチャートで表示される。

この学級シートも、個票同様、入力シートのデータが自動的に表示される。

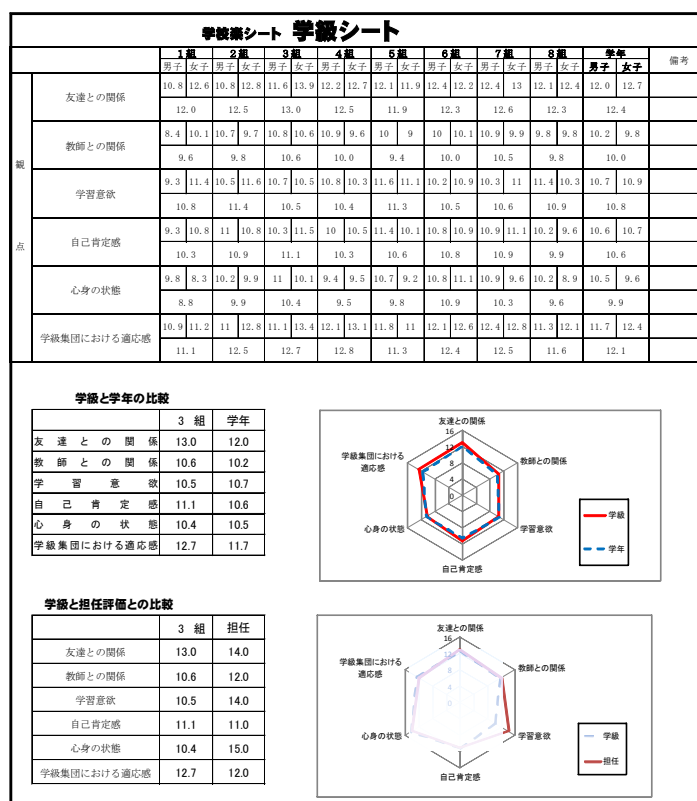


図12 学級シート

2 「学校楽シート」に基づく児童生徒理解

「学校楽シート」を活用することによって、集団（学級、学年等）の状態や個人の状態を客観的に把握することができ、教師が気付かなかった問題点も、データから明らかになる。

また、その結果を基に、教師自身の指導法を見直すとともに適切な集団や個への指導・援助の在り方を考え実践することで、児童生徒が自ら課題を解決したり、不登校やいじめ等の不適応行動を回避したりする力を身に付けさせることができると考える。

(1) 個人の実態把握

ア 各観点の比較

個の実態を理解するには、個の結果を把握した上で、学級の結果と比較することが大切である。このことによって個の特徴をより把握することができる。

図13は、生徒の結果を表すレーダーチャートである。6観点の中で特に心身の状態が高く、自己肯定感が低いことが分かる。したがって、心身の状態と自己肯定感に着目する必要があることが分かる。

図14は、先ほどの個の結果を学級平均と比較したレーダーチャートである。

この例の場合は、学級平均と比較しても、心身の状態が高く、自己肯定感が低いことが分かる。したがって、この生徒については、日常の観察や他の教師からの情報等を参考にしながら、自己肯定感が高まる指導・援助を中心に行っていく必要が考えられる。

このように、個と集団との関係を見ることで、どの観点から指導・援助を進めていけばよいのか容易に理解することができる。

イ 各項目の比較

個の実態をより確かに理解するには、観点に含まれる4項目について個の結果と学級の結果を比較することが考えられる。

図15は、自己肯定感4項目の結果と学級の平均を比較したグラフである。

この例の場合、グラフから、「自分には、自分なりのよいところがある」の項目が低いことが分かる。したがって、この生徒については、自分のよさに気付いたり、自覚したりするような指導・援助を行っていく必要が考えられる。

[※図13～17は、中学校生徒の例]

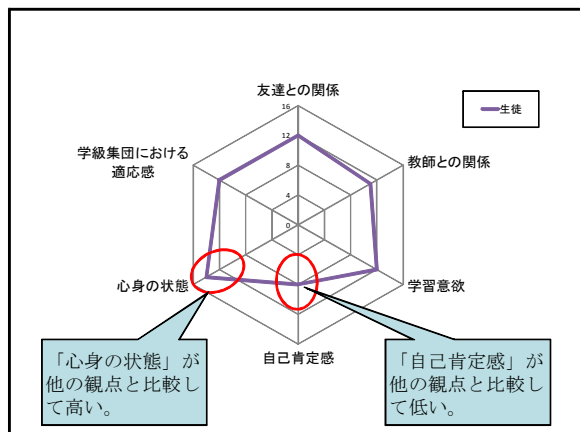


図13 個の結果

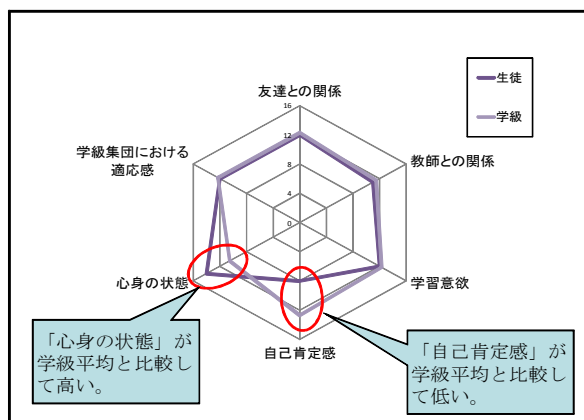


図14 個と学級平均の比較

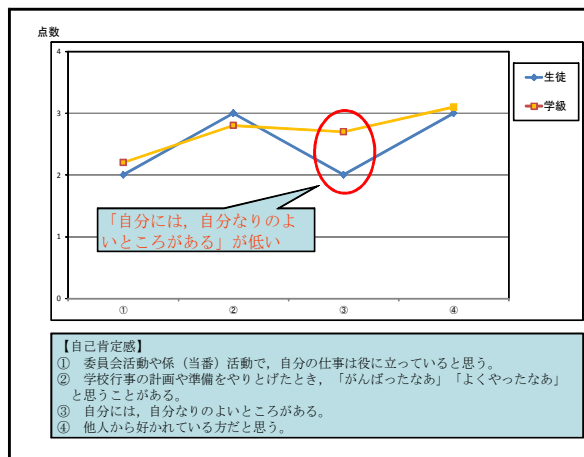


図15 自己肯定感4項目の比較

このように、各観点に含まれる項目を分析することで、児童生徒理解がより確かなものとなる。また、得られた情報は、教育相談を進めていく上での有効な手掛かりとなると考えられる。

(2) 学級の実態把握

ア 学年との比較

学級の実態を理解するには、シートで得られたデータを観点別に平均化し、学年の実態と比較することが考えられる。

図16は、学級の平均と学年の平均を比較したレーダーチャートである。

この学級の場合、「心身の状態」が学年平均と比較して低いという特徴が分かる。このように学級の特徴を把握した上で、各観点の高低の要因を様々な視点で検討する必要がある。

各観点の結果について、その要因を検討する場合は、日常の観察や他の教師からの情報等を参考にしながら、観点に含まれる各項目の結果を検討したり、男女別の結果や点数の高い項目、低い項目に着目して検討したりすることが考えられる。

イ 教師による評価との比較

児童生徒の実態をよりの確に理解するには、教師が児童生徒の実態を評価し、児童生徒の評価と比較することが大切である。

図17は、学級の観点別の平均と教師の評価を比較したレーダーチャートである。

「学習意欲」の観点を見た場合、学級の平均が教師の評価より低くなっており、互いの評価が大きくずれていることがうかがえる。したがって、その「ずれ」の要因を検討する必要がある。

具体的には、教師が「できている」、「望ましい」と評価した部分が、児童生徒にとっては、「できていない」、「望ましくない」と見なされたり、反対に「できていない」、「望ましくない」と評価した部分が、一部の児童生徒に「できている」、「望ましい」と見なされたりする状況が考えられる。したがって、要因を検討する場合は、まず児童生徒との意識の違いを認め、教師の意識を修正しながら、日常の観察で得られた情報や他の教師からの情報等の結果を検討したり、男女別の結果や点数の高い項目、低い項目などに着目して検討したりすることが求められる。

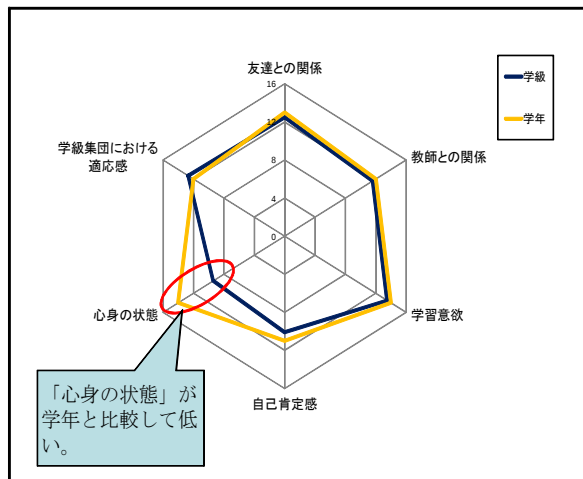


図16 学級平均と学年平均の比較

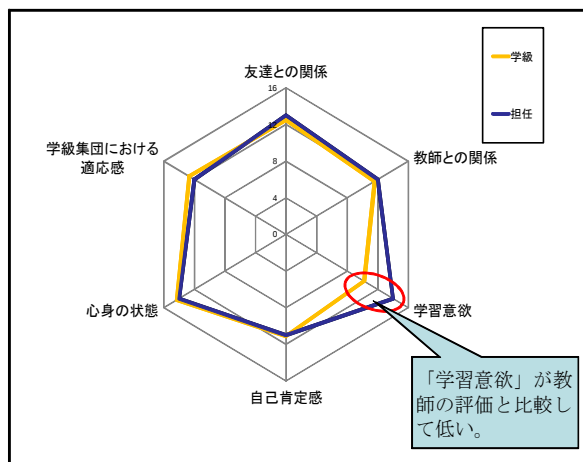


図17 教師の評価と学級の平均の比較